

海知のシンカン祭り

場所：天理市海知町

日程：9月第1土日を含む3日間

海知町の倭恩智神社では氏子から輪番で選ばれた大当屋と補助役の小当屋が、1年間の神社の祭祀を司る。シンカン祭りの初日は、大当屋宅で準備をし、夕食後、庭で巫女の湯立神楽がある。翌日は、両端に餅を刺した竹串2本を十字に交差させ、中心に押さえ餅を置いた「荷餅」、杉皮にちぎった餅を9個並べた「花御供」（杉皮餅）、トウノイモに7本の竹串を刺し、先に7種の果物を刺した「七色の御供」を順に重ねた神饌10膳を神饌箱に納め、神社へ渡御する。夕刻、神前で巫女の湯立神楽がある。三日目、両当屋は、柳の小枝に根つきの稲穂（初穂）を括り付けた御幣を持ち、「蒸御供」の上に「花御供」を重ねた神饌等納めた神饌箱を担いで神社へ渡御する。昔は両当屋は、祭りの月の1日に竜田川で禊ぎをし、大当屋の門口に榊2本を立てて氏神の分霊を迎え、精進潔斎して祭りに奉仕したという。[撮影 野本暉房]

